

輝栄牛会と市長との「”本気”で語ろう会」会議録

団体名	輝栄牛会
日時	令和2年11月8日（日）10時30分から11時45分まで
場所	輝北うわば公園トレイルセンター
参加者	輝栄牛会 8名
	市長、農林商工部長、輝北総合支所長、畜産課長ほか

【参加者の意見・要望等】

○輝栄和牛のブランド化等について

- ・経営の課題として、増頭に向けて規模拡大を図るとともに品質を高めたい。
- ・森ファームの地元産素牛の導入によって、地域内一貫経営が確立され、輝栄和牛のブランドづくりに取り組んでいる。
- ・規模拡大の課題要素として、畜舎整備、労働力、飼料畑確保がある。
- ・スマート農業の取組としては、ICT機器について、牛群管理の把握によって効率的な作業が行えるが制度がいまひとつである。カメラは分娩兆候を舎外で随時確認できる。光回線も開通したので需要も増えてくるのではないかと思う。
- ・放牧について、高齢化も進んでいく中、妊娠した母牛を放牧し、繁殖をローテーションさせることも重要と考える。牛舎等の設備投資も削減できる。
- ・経産肥育について、現在、4～5名が行っている。長年繁殖として貢献してきた牛に感謝し付加価値をつけて最後まで飼養することは重要であると思う。
- ・畜産関係補助事業の周知について、相談会の開催やSNS等を活用し分かりやすく紹介してもらいたい。
- ・飼料作付体系の関係で余剰堆肥が発生する。曾於市の堆肥センターのような集合処理施設について、補助事業を活用できないのか。
- ・農業振興地域における施設整備を計画する際は、手続きに期間がかかる。
- ・うわば公園での輝栄和牛肉販売について、宿泊者が年間4,500人利用している。この方々に良質な輝栄和牛肉を提供することで、他との差別化を図りたい。
- ・輝北では、4月に畜産まつり、11月に輝北まつりがあるが、もうひとつ8月ごろ、何かイベントが出来ないかと考えている。

【市長】

- ・経営規模の大小に関わらずクラスター事業等の活用は可能である。
- ・農業には適正規模があり、多頭化ばかりを目指すのではなく、経営上どこに視点を置くかも重要である。
- ・本市にはおいては、ドローンによる防除、無人トラクターなどのスマート農業を推進している。畜産での活用も進めていくことが大切である。

- 耕作放棄地や山林を活用した放牧など、畜産のまちとして新しい産業を興すことも大事だと思っており、今後も情報収集に努めていく。
- 畜産環境対策について、輝北ダム流域の農家は特に河川への汚水流出がないように配慮願いたい。家畜排せつ物の適正処理も含めて畜産経営である。
- 補助事業等の周知については、年度初めの文書通知や総会等各種会議での情報提供やかみやアグリネット等のSNSを活用した情報提供を行っているが、今後は、年度始めの説明会や、相談会、個別訪問なども考えていきたい。
- 堆肥処理は、資源リサイクル事業、クラスター事業等の活用、また、放牧と併せて集合処理について勉強する必要がある。
- 農業振興地域における施設整備については、手続きに時間がかかることを想定して早めに計画内容について、相談していただきたい。
- 今後は、輝栄牛会が中心となって、畜産のみならず地域の活性化を図ってほしい。
- 市においても会合への出席や講師派遣について県とも連携したい。
- 市のホームページにおいて地域で活動する団体を紹介するなど情報発信に取り組みたい。
- 4月の日枝神社まつり、11月の輝北まつりのほかに、8月という意見もあるが、夏場は野菜が少ないので、園芸農家等も巻き込みながら耕畜連携の祭りも行えな  
いか考えていきたい。